

県民一人一文化

～文化芸術に親しみ すてきな芸術の秋を～

南に開かれた鹿児島県は、古くから黒潮に乗ってさまざまな文化が行き来していました。東南アジア、中国、朝鮮半島などとの交易が頻繁に行われ、異文化との触れ合いを通じ、県内の各地域の自然、歴史、風土に根差した多彩で独自の文化芸術が育まれてきました。



①文芸・短歌（鹿児島県歌人協会） ②創花（鹿児島吉田地域文化協会） ③クラシックバレエ（いちき串木野市文化協会） ④長唄&舞踊（西之表文化協会）
⑤創作太鼓（伊佐市文化協会）

県の取り組み

「県民一人一文化」は、鹿児島県が文化芸術に取り組み上での合い言葉となっています。

文化芸術は、一見理解が難しく、とっつきにくいイメージがありますが、喜びや感動、精神的な安らぎを与え、自分自身を成長させてくれるとともに、新たな創造力を育んでくれるものです。

鹿児島県では、これらを踏まえ次のような施策を展開しています。

・文化芸術の創造活動の促進と鑑賞機会の充実

芸術祭などの発表の場の提供、各文化施設の鑑賞事業の充実 など

・地域文化の継承・発展と地域づくりへの活用

各地の民俗芸能など地域文化の掘り起こしと保存、伝統文化を伝える世代と受け継ぐ世代が共に参加する体験型の講習会の開催 など

・文化芸術に携わる人材の育成

国内外の著名なアーティストによる講習会、アーティストバンクの整備促進 など

・文化芸術を通じた国内外との交流促進と情報発信

文化芸術に携わる人材の受け入れや派遣など国内外との交流の促進、本県の文化人・芸術家などの人的ネットワークを活用した情報の発信 など



アートで人生をより豊かに、楽しく！



きりしま創造舞台副会長
地蔵原 勇さん

「きりしま創造舞台」は、脚本からダンスの振り付け、衣装にいたるまで全て自分たちの手づくりで公演を開催しています。出演者は毎年オーディションを行い、厳しい稽古を経て舞台に立ちます。中には不登校になっている生徒もいましたが、みんなと一緒に一生懸命稽古をして、公演のあとは学校に通うようになっていました。また、稽古に通うことで以前より元気になったというシニア世代の方もいます。近所の人や親戚などの身近な人が舞台に参加していることが刺激になり、結果的に参加する人たちの青少年育成や生涯学習の場となってきました。

東京などの大都市から離れると芸術作品や舞台鑑賞といった「生」の臨場感を体感する機会は極端に減ります。地元霧島で、市民全員参加で舞台を一生懸命創り観客も楽しむ、そうやって演劇やミュージカルなどの芸術にもっと親しんでいければと思います。

「きりしま創造舞台」は、霧島市の住民を中心に年代や職業などが異なるさまざまな人たちが参加。一緒に楽しく汗を流し、共感できるものを創り出すことで、誇りと自信を持てる地域づくりを目指しています。



よしだポップスオーケストラ
指揮者、トランペット奏者
中島 徹己さん

私たちは、音楽ホールだけではなくさまざまな場所で演奏しています。以前、特別支援学校で演奏したときには、生徒の皆さんが反応を素直に表現してくれたので、自分たちもやりがいを感じました。毎年チャリティコンサートを開催し、収益金の一部で福祉施設に車いすの寄贈も行っています。活動を通じて社会に貢献していけたらいいですね。演奏会では、聴き手の皆さんがその場で楽器に触れたり、演奏を体験する時間も設け、より音楽を身近に感じてもらえるように努めています。

私たちのオーケストラは所属するメンバーの年齢層が幅広いことが特徴で、一番若いメンバーは小学5年生です。若いときからさまざまな音楽に触れることができる環境が整っていくと県全体の音楽の基礎力が高まり、もっと音楽を楽しむことができると思います。

主催するコンサートのほか、さまざまなイベント会場、保育園、特別支援学校などで演奏会を実施しており、11月18日に開催される県民文化フェスタにも参加予定。12月1日には毎年恒例のチャリティコンサートも開催します。



指宿商業高校非常勤講師
彫刻家
田原 迫 華さん

勤務する高校の美術準備室で篤姫像を制作していたときには、夢中で粘土をこねる様子が高校生には不思議だったようで、美術準備室をのぞいていく生徒もいました。実際の制作の場を見る機会は少ないので、子どもたちが銅像の造られていく工程を知る機会や彫刻ともしっかり触れ合う機会を増やしていきたいと思っています。私自身が制作する過程を公開して、多くの人に見てもらうことで、彫刻や銅像は難しいものではないんだと興味を持つきっかけにもなってもらえればと思っています。また、女性アーティストが活躍できる場がもっと増えていけば鹿児島県の芸術分野はますます魅力がでてくるのではないかと感じています。

指宿市今和泉の海岸に建つ「幼少の篤姫・於一像」を制作。子どもらしい顔立ちと意志の強さを感じさせる表情をした像は地元指宿の子どもたちがモデル。実際に、子どもたちや観光客に触って親しみを深めてもらい、愛される銅像になってほしいという思いがこもっています。